

働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

東京都千代田区二番町 12-1 3 F

2006年7月6日

職場のさまざまな実態がよせられました。“和歌山編”を紹介していきます。

台風一過

小学校 女性 50代

今から思うと、嵐というより大型台風が通過したような1ヶ月だった。

6月の第1週は研究指定校の要請学校訪問、第3週は県教委の学校訪問、第4週には、指導委員訪問、そして最後に授業参観……。11月に文部科学省指定の研究発表会が予定されているので、2学期よりは1学期に、各種の学校訪問を終えてしまおうと、自分たちで決めたことではあるけれど、予想をはるかに上回るしんどさだった。研究授業をしてくれた学年はもちろんだけど、どのクラスも1ヶ月に3回の公開授業はかなりきつい。その後の研究協議も重なると負担になった。ストレスがたまり、みんな顔を合わすと言葉より先にため息が出る毎日だった。

毎日大変です

小学校 男性 40代

チャイムがなってもウロウロ、担任が教室に来てウロウロ、授業が始まっているにもかかわらず、いっこうに席に着こうとしない子どもたち。学校現場の様子は以前に比べ大きく様変わりしてきた。一人ひとりの個性を大切にしたい指導と言われても、一人ひとりに接する余裕すらないのが今の学校です。クラスの人数を少なくすること、様々な書類の作成や、報告といった雑務を減らしていかない限り、子どもたちとじっくり接することはできません。もっと学校にゆとりを！

子育てができない！

養護学校 女性 30代

この7年の間に3人の子どもを出産しましたが、第1子よりも第2子、第2子よりも第3子の復帰時と、より忙しさが増してきたように思います。第1子の時はまだ熱が出ると年休をとり、看病することができたが、第3子の今は、なかなか年休がとれず、少々熱があっても保育所をお願いすることが多々あります。

帰宅時間も遅くなりがちで、帰ってから子ども達にご飯を食べさせ、お風呂に入れて寝かしつけるのがやっとで、なかなかゆとりのある時間が持てません。少子化に歯止めをと叫ばれているが、これでは子育てをするのはとても大変です。

また、学校評価、特別支援教育、教科用図書選定等々仕事が多様化し、会議が多くなり、それに伴う報告書等の書類作成に追われ、多忙は極まるばかりです。確かに子どもに必要なことではありますが、このままでは、仕事に追われる教師の日々の疲れがたまり、子どもへの細やかな配慮や危険の予測等が鈍り、大きな事故につながりかねないと心配します。

小学 1 年生は大変です

小学校 女性 50 代

小規模校に勤めています。今年は 1 年生を担当しているので、朝 8 時前には教室に行き、子どもたちを迎えています。教室の窓を開け、子どもたちの連絡帳（家庭からの連絡）を見たり、宿題を提出したのを確かめたり、子どもの話を聞いたりしながら子どもの健康観察をします。出勤から 8 時 15 分（勤務時間の始まりの時刻）の職朝（職員打ち合わせ）までの時間も既に勤務です。

大休憩（休息）は、学習が遅れている子どもへの指導や、宿題を見たり提出物を確かめたりで教師にとっては休息どころではありません。

昼の休憩時間は給食の片づけにほとんどかかりっきりです。給食の好き嫌いの多い子どもが増え、給食指導にも時間がかかります。最後の子が食べ終わって食器や給食台などの片づけを終えると昼休憩も終わっています。トイレに行くのがやっとの状態です。それに、午後の読書タイム（1 年生は読み聞かせ）の準備も必要です。

放課後は教材・教具の準備や週案（1 週間の授業計画）作り・毎週の学年だより作り・プリント作り・作文や書き方の丸つけなど、5 時間目で子どもを帰す 1 年生担任でもすることが山積みです。家庭との連絡、教室掲示（作るのはほとんど持ち帰り仕事）や子どもの作品掲示、学級園の花の水遣り・草引き……。勤務時間内には終われなくて、残って仕事をしますが、それでも持ち帰り仕事が多いです。

その他に、校務分掌で給食事務があります。毎月の給食の注文書を作成します。一つずつの食材を業者ごとに書き出し、生徒数×必要量を出して表に書き出していきます。栄養士さんがいないのでこれも教師の仕事になっています。もちろん各業者への発注・変更・納品書の確認、教育委員会への書類提出などもします。調理員さんとの事務連絡や給食の献立での不都合があったときの連絡・納品遅れや不良品があったときの業者との連絡、転校生の数の変動など仕事は山ほどあります。急ぐときは授業の中断もやむをえません。新学期が始まるとすぐに給食も始まるため、準備は休み中の仕事です。今年は校務の分担を配慮して下さって、去年より減らしてくれていますが、小規模校なので校務分掌は他にもたくさんあります。

学期末事務の時期や研究授業の前はなおさらです。遅くまで会議があったり、深夜まで教材研究をしたり、持ち帰り仕事をしたりの日々が続きます。疲れていても、少々熱があっても休める状態ではありません。これは、わたし一人のことではなく、ほとんど全員の勤務状態です。

トップダウンの教育改革でストレス倍増

中学校 男性 40 代

教材研究、総合の時間や道徳・学活の準備、生徒指導やクラブ指導、日記やノート点検など……多忙な毎日。この現状に加えて、上からの「研究指定」や「研修」のしつこいほどの押し付け、細かい点検の数々、膨大な書類の提出など……多忙化に拍車がかかり、「ゆとりの教育」とは逆行。この「多忙化」に対応するためには、これまで自分たちで工夫して積み上げてきた実践を削らざるを得ず、本当に身を切るようなつらい思いをしながらの毎日です。